

モーツアルト盤を聴く(17)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(17)—

1. 始めに

前報(16)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、アンサンブルの曲です。

harmonica mundi ULX-3052-X

モーツアルト ディヴェルティメント 11 番ニ長調

ディヴェルティメント 10 番へ長調

コレギウムアウレウム合奏団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

harmonica mundi 盤ということで、EMI、正相、第4時定数 Low で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、歯切れよく活動的な再生ぶりで、ガット弦の弦楽器やバロックオーボエやナチュラルホルンのような古楽器の音色が復元されています。

ThorensTD124 の再生では、歯切れよく活動的な再生ぶりは、LINN LP-12 と同様ですが、さらにノスタルジックな印象を受けます。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorensTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、LINN LP-12 と ThorensTD124 とともに古楽アンサンブルらしい再生がなされていますが、LINN LP-12 と ThorensTD124 の味わいの違いもよく分かります。

以上